



お知らせ



- 来る 11 月 13 日(木)に、日本の大豆関連業界の皆様へ新穀アメリカ大豆の品質・生産状況をお知らせするためのコンファレンスをヒルトン東京にて開催いたします。
- 食品大豆の品質は大豆の育種家でもあるミネソタ大学の Jim Orf 教授より報告いたします。又、海外の大豆食品企業や ASA-IM 食品担当も多数、参加致します。
- 会場に隣接したスペースでは 13:00 より食品大豆サプライヤー他によるトレードショーを実施いたします。ASA-IM Japan 考案レシピの SOY CHOCO (大豆入りチョコ)をご用意しておりますので、是非、13:00 にお越し下さい。お申し込み用紙は、↓ からダウンロードできます。 http://www.asajapan.org/news/news/news_2008_10_10.html

11月9-12日まで、ヒルトン東京で**第8回大豆の国際会議、「健康増進、慢性疾患予防および治療における大豆の役割」**が開催されます。第 1-6 回まではアメリカで実施されて来ましたが、今年初めて日本での企画が実現しました。メタボリックシンドローム対策の有力素材とし、各企業が大豆に再注目する中での本会議開催は、まさに画期的なタイミングと言えるでしょう。大豆の効果に関する最新の臨床・疫学研究について学びます。ASA-IM もプラチナスポンサーとして会議をサポートします。尚、10 日午後には、ASA-IM と SNIJ のジョイントプログラムを開催予定です。

8th International Symposium on the *Role of Soy*
in Health Promotion and Chronic Disease Prevention and Treatment
November 9-12, 2008 • Tokyo, Japan

国際会議 詳細は↓ SNIJ のウェブページより
<http://www.snij.jp/xoops/modules/news/article.php?storyid=3>



米国農務省主席エコノミストが食品インフレが減速と予測



先週のロイター通信とのインタビューで、USDA ジョゼフ・グローバー首席エコノミストは、食品価格の高騰は来年には若干収まるものの、長期予想レベルより高い水準に留まりそうだと述べた。ロンドンで開かれた食糧安全保障に関する会議の後、彼は「我々は食品価格の高騰が収まることを多分に望んでいるが、来年度にはあまり多くは望めない」と語った。米国における食品価格の暴騰は現在年率5~6%で推移しており、来年には4~5%に下降するかもしれないとグローバー首席エコノミストは言う。USDAは食品価格の上昇は長期的には2~3%にまで戻るものと予測している。

グローバー氏は、今年度初頭の穀物市場における急騰を受けた飼料価格の上昇は、畜産物の価格上昇には即座に直結しなかったと言う。「(畜産農家は)家畜の数を減らすことで対応したが、それには時間がかかる。それが来年度にはインフレ率は低下するものの、2~3%レベルにまでは戻らないとみる一つの理由である」と付言した。これは 9%という食品価格の高騰予想をしているある業界アナリストとは非常に対照的だ。

高い商品相場により収量が改善され、より多くの土地を生産に向かわすことができると同氏は言う。しかし、北米では作付面積を拡大する余地は限定されており、南米でも環境問題に関連した制約があると付言した。「長期的には土地は技術開発と密接に結びつき、より高い商品相場は必ずや研究を奨励するだろう」と彼は言い、さらに価格のシグナルも、生産者に水利用のような分野での新技術の導入や、より効率的な技術の採用を促すと付言した。

先週同氏は、バイオ燃料は食品価格高騰の10パーセントの原因であり、農産物市場における著しい乱高下は2009年度も続きそうだと、コモディティ価格の高騰と食品価格上昇との相関関係に焦点をあてたFRB(連邦準備銀行)シカゴの会議「農業市場と食品価格高騰」の席上で語った。「(バイオ燃料の)原料コモディティに及ぼす影響は相当に大きく、コーンでは約30%、大豆では約40%」だと言う。「しかし、食品価格への影響は実に様々である。」

コーンおよび大豆価格の高騰によって、植物油や高果糖コーンシロップのような製品の価格が上昇していることをグローバー氏は強調した。「しかし、これらの製品の価値は小売レベルの食品の総体的なコストに比べるとかなり低いので、影響はかなり小さい」とも言う。バイオ燃料生産は、食物消費者物価指数(CPI)において昨年度食品価格高騰の約10%増大の原因となったと彼は指摘する。(10月13日付 American Soybean Association Weekly Newsletter より)

ASA-IMは、外食産業のネットワークとしては日本最大である **ぐるなび** とのタイアップで都内 20ヶ所の飲食店にて **アメリカ産大豆フェア** を行います。詳しくは近日中、ASA-IMウェブサイトのお知らせと、ぐるなびトップページよりお知らせいたします。更なる大豆食品の消費拡大のためにも、是非周囲の方を誘ってアメリカ産大豆フェアへお出かけください!

ASA-IM JAPAN 発行
HP: <http://www.asaimjapan.org/>
Food Soybean: Masi Tateishi
食品担当: 立石雅子
E-mail: mailto:asamt@gol.com

